

## ソードの成長戦略

# 宮武幸裕社長に展望を聞く

古河電気工業グループで半導体リードフレームなどを製造するプレス・めつき一橋

（宮武幸祐社長）は、2011年に発生した同国の大洪水で設備被害を受けた。三、着工と運営の回復などを

鉄道総合技術研究所と古河電気工業は、希土類系高温超電導導線材を用いた高温超電導コイルと希土類高温超電導バルク体からなる小型の高温超電導磁気軸受で、10t(98kgf)を超す大荷重浮上実験に初めて成功した。永久磁石による磁気浮上

方式ではこれまで  
シが上限だったが、今  
回は超電導磁気軸受と  
して世界最大級の10ト  
ンを実現。これにより、  
効率的な電気エネルギー  
の貯蔵量増加を達成  
し、超電導磁気軸受の  
小型化・低コスト化を  
可能にする。将来的に  
は、再生可能エネルギー

この出力安定化や、通用回生エネルギーの有効活用に必要とされる1-GW級蓄電システム実現への見通しも得られた。

総数(5個)は変えずに、磁界強度が高く線材の負荷も高い上側2個の超電導コイルに通電電流容量が従来線材比で40%大きい高性能線材を使用。これにより、コイル数を増やすずに貯蔵エネルギー量を増加し、低コストな大荷重対応高温超電導

今後の開発成果は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）による「安全・低成本大規模蓄電システム技術開発」の助成事業として、鉄道総研古河電工、クボテックミラプロ、山梨県の3者が共同で製作した超

開発のアルミニウムEBR-B  
製の断熱回転軸に関する  
ては、鉄道総研が基本  
設計したものを古河電  
工、および松井鋼材各  
ループの協力を得て製  
作した。なお、高温超  
電導バルク体には、新  
日鐵住金製の希土類  
温超電導物質の大型單  
結晶が用いられた。

鐵道總研  
古河電工

高溫超電導  
磁氣軸受

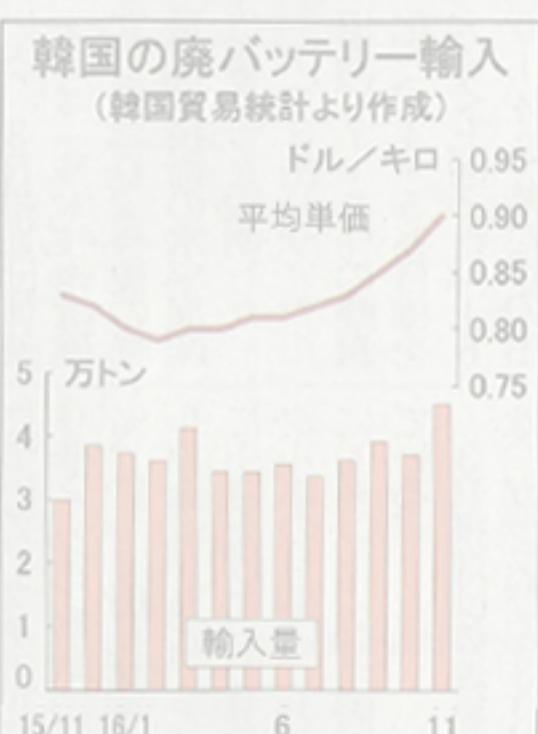
# 大荷重浮上に成功

**小型・低コスト化可能に**

鉛二次精錬業が盛んな韓国は、リサイクル原料である廃バッテリーを海外から大量調達している。6月にほどなくして、この現象が注目される。6月には、韓国でリサイクル業者による廃バッテリーの輸入規制が実施され、輸入規制が実施された後も、依然として輸入が続いている。これは、韓国国内のリサイクル業者が、廃バッテリーの供給が不足しているためだ。また、韓国では、廃バッテリーの輸入規制が実施された後も、依然として輸入が続いている。これは、韓国国内のリサイクル業者が、廃バッテリーの供給が不足しているためだ。

対日20%増え8606トン

韓国の大バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）輸入が急増した。韓国関税庁がこのほど発表した貿易統計によると、11月輸入量は前月比21・3%増の4万5003㌧で、過去最多を記録。輸入平均単価も1年3カ月ぶりのキロ90㌦に上昇した。日本からの輸入は20・5%増の8606㌧。



月のロンドン金属取引所(LME)の鉛相場上昇によって原料の先物観が生じたため、韓国側が買い急いだものと考えられる。輸入平均単価は前月比3%高のキロ90円と、昨年8月以来の高値を付けた。